

タイトル： ～透析になっても変わらない生活を～  
自分の部屋でできる腹膜透析

キーワード ※3つ記入。

透析(腹膜透析)	法人名	社会福祉法人栄和会
医療×介護	施設種別	ケア
チームワーク	施設名	やすらぎ

研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)	氏名	職種	備考
	① 小野寺 貴美	生活相談員	
	② 田村 利香子	看護師	
	③		
	④		
	⑤		

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人	経営主体	社会福祉法人
開設年月日	1994年4月1日	所在市町村	札幌市
市町村人口	1,943,861 人	65歳以上人口(高齢化率)	551,942 人 (高齢化率 28.4 %)
利用者定員数	50 人	利用者平均年齢	86.93 歳
職員数	16 人	職員数内訳	介護職 11 名 看護職 2 名
併設施設・事業	特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、通所介護、認知症対応型通所介護、居宅介護支援事業所、包括支援センター		
施設のサービスの概要	社会福祉法人栄和会ケアハウスやすらぎは、札幌市にて平成6年に開設。平成18年に特定施設入居者生活介護を開始し、顔なじみの職員による介護サービスを提供しております。		

発表の概要

<p>①取り組んだ課題 ケアハウスの課題 医療ニーズが高くなると退去するケースが多く、本人が生活の継続を希望しても思いに添えなかった。 要介護4で透析が必要となったAさんの対応 心不全の治療入院中に透析が必要となり、施設への退院が困難になったAさん。 Aさんの「やすらぎに帰りたい」という思いを叶えるために病院、施設、家族、製薬会社(テルモ)、訪問看護ステーションが連携し、施設内で透析を行い、本人にとって変わらない生活の実現に向けて支援を開始した。</p> <p>②具体的な取り組み R3.6月 A様の入院先より施設で可能な腹膜透析の打診あり。受け入れを検討するために製薬会社担当者より全職員が腹膜透析の研修を受ける。※施設Ns1名が小児の腹膜透析の経験あり。 ケアハウスに退院するにあたって予想されることを関係機関(製薬会社、HP、介護保険課、保健所)から情報収集し、施設サービス以外で使える資源を確認する。 腹膜透析が開始され、本人も腹膜透析の手法ができるようにHP側に協力を依頼。担当MsWが手法のパンフレットを切り貼りし、本人にとって分かりやすいものを作成。 同年7月 腹膜透析が始まり、数日後に相談員、看護師で見学。 医療保険や保険外サービスを使いながら腹膜透析をサポートできる訪問看護ステーションが見つかる。費用や体調面で考えられることを道外在住のkpへ説明し、同意いただく。 7月中旬 HPにて退院前ICが開かれ、ケアハウス、訪問看護ステーション、zoomを通してkpが参加し、関係者の顔合わせをした。ICの翌週に退院、施設内で腹膜透析を開始した。 以後、HPやkpとは電話やメールにて情報共有を行った。製薬会社へ物品の手配し、多職種が連携しながら腹膜透析を継続。</p>	<p>③活動の成果と評価 活動の成果 ケアハウスでは初めてのことで、HPや製薬会社も事例が少ない状況だったが多職種が協力しながら腹膜透析を行った。 A様が入院し、退院するまで約1ヶ月で体制を作っており激動の日々だった。苦労した部分は多かったが多職種連携ができた。 血液透析ではなく、腹膜透析になったことでAさんと過ごす時間が増えた。 活動の評価 腹膜透析液になったことで大きな食事制限もなく、「美味しい」を楽しみながら変わらない生活ができた。 正しい知識とチームワークで本人の希望する生活を支えることができた。 腹膜透析を開始し、認知症の進行や体調不良、チューブ入口の感染やチューブ抜去もあったが腹膜透析を開始してから1年9か月ケアハウスで生活ができた。</p> <p>④今後の課題 現状と課題 血液透析より腹膜透析は体への負担が少ないと言われ、HPまでの移動もなく、高齢者にとって優しい。 ⇒しかし、高齢者が一人で管理することは難しく、サポート体制が整っていない。 基本的には毎日行う腹膜透析は医療行為となる。特定施設入居者生活介護の看護師の配置基準だけでは厳しい。 透析に関する医療費の負担はないが、ガーゼや訪問看護の保険外の費用が発生した。</p> <p>⑤参考資料など 札幌北極病院腎臓内科資料 テルモ腹膜透析システム操作手順より</p>
--	---

※「応募用紙」とともにメールにて【7月12日(金)】までにご提出ください→ roushikyo@dosityakyo.or.jp まで。